



六ツ川中だより

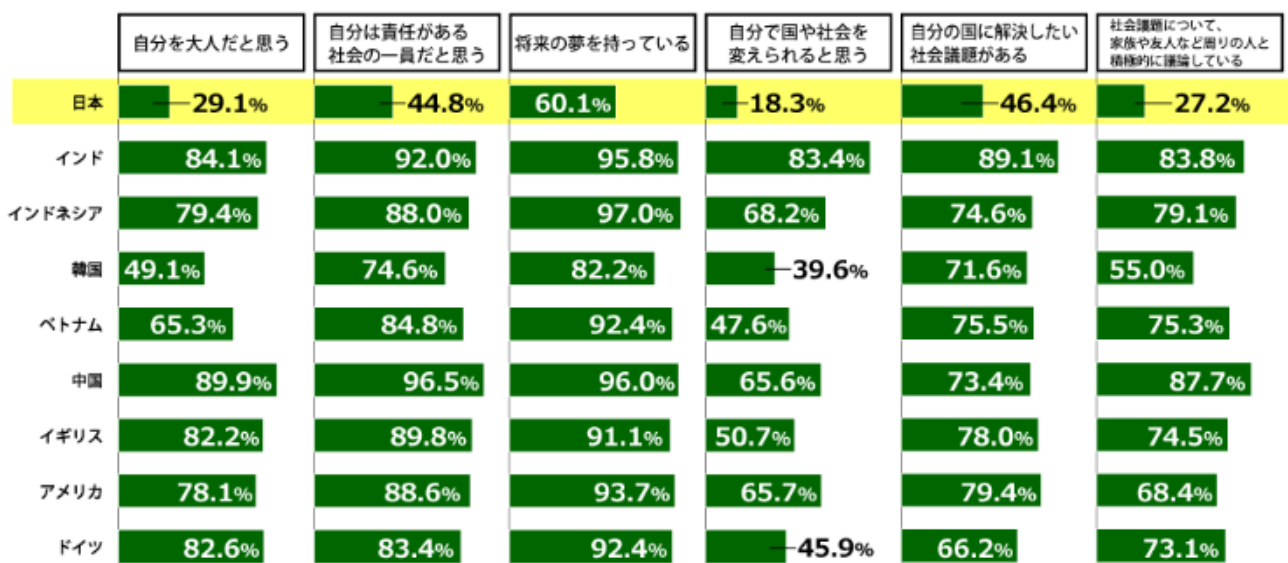
発行日：令和5年 10月18日(水) NO.6

発行者：横浜市立六ツ川中学校 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/mutsukawa/>

国や社会に対する意識調査より

校長 妹尾 正彦

学校長として様々な研修を受講する機会があるが、今年受講した研修で示されたデータに大きな衝撃を受けるものがあった。それは日本財団が行った「18歳意識調査」というもので、9か国で行った「国や社会に対する意識」に対する結果が示されていた。



日本財団「18歳意識調査」第20回テーマ：「国や社会に対する意識」より

日本は2018年のOECDの調査で、学校教員の平均勤務時間は最も長い時間であり、15歳の数学的・科学的リテラシーはトップレベルである。しかし、社会への当事者意識は上記のような結果である。また、経済産業省が2019年に行った調査では、日本の国際競争力は31位となっていて、この30年の間に1位から30番も落ちている状況である。そして、企業で働く人の「社外学習・自己啓発を行っていない人の割合」も46%で断トツの1位となっている（2位のニュージーランドが24%程度なので「断トツ」である）。

学校は小さな社会である。その中で「集団の一員」としての自覚や自分たちで学校・学級での課題の解決や改善を図ること、難しい中でもやり遂げることの素晴らしさ、そういった学びをさせる必要性は感じていながらも十分させることができこなかったのかもしれない。子どもは大人が準備した学習内容を大人が準備した方法で勉強し、子どもが失敗しそうな原因は先に大人がすべて排除し、それでも起きた問題も大人が中心となって解決する。これでは、子どもは自ら学ぶ方法がわからないし、学ぶ難しさや学ぶ楽しさを得ることもない。「人はもともと失敗から学ぶ」ものなのに、失敗に慣れていないから、失敗を恐れすぎるし、失敗からの切り替えもできない。そんな状況を創って来てしまったのではないか。日本の教育のあり方をもう一度社会全体で考え直す必要性を痛感させられるとともに、自ら行ってきた教育を見直すきっかけとなるデータであった。

今週末、本校では橙花祭が行われる。その中の合唱コンクールは、学級で次々起こる様々な問題を自分たちで乗り越えて学級全体で1つの作品を作り上げる絶好の学びの機会である。一人一人の生徒にとって、素晴らしい学びとなることを期待したい。